

中国の電解槽市場の現状 —コスト低減が進むアルカリ型の価格競争と、次なる展開—

<エグゼクティブサマリー>

- 中国のグリーン水素産業が急拡大している。2025 年の水素生産能力は建設中を含め年 100 万トンに達し、今年上半期の投資額は前年同期比 160%増を記録した。脱炭素政策の強化で電解槽需要が急増し、アルカリ型単価はピーク時の半値以下(1,000 ノルマルリューベ毎時(Nm³/h)で 254 万円)に下落、製造コストもグレー水素水準に迫る。
- 一方、電解槽の国内出荷量約 3 ギガワットに対し設備生産能力は約 16 倍の約 48 ギガワット弱に達し、深刻な供給過剰が生じている。実態は上位 5 社が受注の 8 割以上を占める寡占であり、200 社超のメーカーの大半は利益度外視の価格競争や回収周期の長さ(18~24 カ月)から赤字拡大や倒産に直面している。
- 企業は中東や欧州等の海外へ活路を求めるが、欧州の保護主義的規制や仕様適合の壁から進出は容易でない。技術面では PEM 型や次世代 AEM 型の開発が進む。国内外で「過剰生産」への懸念が高まる中、中国政府は公式見解でこれを否定しつつも「無秩序な能力拡張の防止」を掲げており、今後の市場淘汰が注目される。

※本レポートは、JPEC 中国事務所等の情報に基づき、日中経済協会が作成したものです。

本レポートは、中国メディアの報道・分析を元にしたものです。元、中国の経済界の要人による。



この記事は、賛助会員・情報提供サービス購読者限定です。
お申し込み後、続きをご覧くださいのための閲覧用パスワードをお送りします。

賛助会員・情報提供サービス購読者の方は、
下のボタンから続きをご覧ください。

続きを読む

◆情報提供サービスのお申込みはこちら >

◆賛助会員については、こちらからお問い合わせください >